

外部評価委員会 評 価 報 告 書

(第四期中期計画期間・中間評価)

令和 7 年 6 月 10 日

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

東京都健康長寿医療センター研究所

ま え が き

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所は、「高齢者の心身の特性に応じた適切な医療の提供、臨床と研究の連携、高齢者の QOL を維持・向上させるための研究を通じて、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指し、大都市東京における超高齢社会の都市モデルの創造の一翼を担う。」ことを法人の理念とし、東京都における高齢者医療・老年学・老年医学の研究拠点として、その成果及び知見を広く社会に発信する機能を発揮し、もって日本の高齢者の健康の維持及び増進に寄与することを目的として設立されました。研究所では、老化メカニズムや高齢者特有の疾患に関する機序の解明、高齢者の社会参加の促進など、多岐にわたる研究を推進し、高齢者を取り巻く課題に総合的に取り組んでまいりました。

令和6年度は、第四期中期計画(令和5年度～令和9年度の5か年計画)の2年度目にあたります。

当研究所は、自然科学系と社会科学系の2系統の研究部門に分かれ、様々な専門分野の研究チーム、研究テーマによって構成されております。また、「介護予防・フレイル予防」及び「認知症との共生・予防」に向けて、病院と研究所が一体となり、認知症未来社会創造センター(IRIDE)やフレイル予防センターにおける取組のほか、健康長寿医療研修センターでの地域の医療・介護を支える人材の育成を進めております

また当研究所では、より効率的・効果的な研究活動を推進し、高齢者のための健康維持や老化・老年病予防に寄与する研究体制づくりに資することを目的として、平成22年度より外部評価委員会を設置し、学識経験者、都民代表者及び行政関係者による厳正な評価をいただいております。

この度もいただいた評価、御意見や御助言を踏まえ、第四期中期計画の達成に尽力して参る所存です。

都民の皆様、外部評価委員の皆様、御関係の皆様には、今後とも当研究所の研究活動に御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター
東京都健康長寿医療センター研究所
センター長 秋下 雅弘

目 次

- 1 自然科学系 外部評価委員会
- 2 社会科学系 外部評価委員会
- 3 外部評価委員会設置要綱
- 4 外部評価委員会実施要領

1 自然科学系 外部評価委員会

1 評価対象(研究テーマ)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化機構	分子機構	A
	プロテオーム	A
	システム加齢医学	S
老化制御	分子老化制御	A
	生体調節機能	A
	老化細胞	A
老化脳神経科学	自律神経機能	A
	記憶神経科学	A
	老化神経生物学	A
加齢変容	心血管老化再生医学	A
	筋老化制御	A
老年病理学	高齢者がん	A
	神経病理学	S
神経画像	PET 薬剤科学	A
	PET 画像診断	A
	AI 画像解析	A

2 評価方法

各研究テーマについて、第四期中期目標・中期計画(令和5年度～令和9年度の5カ年計画)期間における①当該年度の研究成果 ②研究計画実現の可能性 の評価項目により5段階(5点満点)の評価を行い、総合評価点について、以下のようにSからDの5段階に評価を区分した。

総合評価点	評価区分
4.4点以上	S(非常に優れている)
3.2点以上～4.4点未満	A(優れている)
2.0点以上～3.2点未満	B(ふつう)
1.5点以上～2.0点未満	C(やや劣っている)
1.5点未満	D(劣っている)

3 外部評価委員

区分	氏名	所属機関名	所属部署・役職名
学識経験者 (委員長)	田中 栄	東京大学	医学系研究科 整形外科学・教授 東京大学医学部附属病院・病院長
学識経験者	平澤 恵理	順天堂大学	大学院医学研究科 老人性疾患病 態・治療研究センター・教授
学識経験者	横手 幸太郎	千葉大学	千葉大学・学長
学識経験者	樋口 京一	公立大学法人名桜 大学	大学院スポーツ健康科学研究科・ 教授
学識経験者	新飯田 俊平	国立長寿医療研究 センター	国立長寿医療研究センター・研究 所長特任補佐
学識経験者	小川 純人	東京大学	大学院医学系研究科 老年病学・ 教授
都民代表者	田中 泰義	毎日新聞	論説委員
行政関係者	梶野 京子	東京都	福祉局・高齢者施策推進担当部長

(令和7年3月11日現在)

4 外部評価委員会 開催日

令和7年3月11日(火)

5 評価結果

次頁のとおり

(評価結果・老化機構研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化機構	分子機構	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 糖鎖異常による疾患発症メカニズムの解明とその応用 (2) 老化および老化疾患に関連する糖鎖機能の解明 (3) 認知症における糖鎖機能の解明		

(評価結果・老化機構研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化機構	プロテオーム	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 細胞外小胞(EV)を標的としたバイオマーカー探索と機能解明 (2) 超硫黄生体物質の解析法の創出と老化関連疾患研究への応用 (3) 超高感度グライコムクス・グライコプロテオミクス研究基盤の確立と老化・老化関連疾患研究への応用		

(評価結果・老化機構研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化機構	システム加齢医学	S
【評価対象(研究項目)】 (1) 加齢性疾患・健康長寿における性ホルモンの予防・治療効果とそのメカニズムの解明 (2) 健康長寿を損なうホルモン依存性がんにおける性ホルモンシグナルと治療抵抗性メカニズムの解明		

(評価結果・老化制御研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化制御	分子老化制御	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 老化機構の解明 (2) 老化制御の達成(ビタミン C と老化) (3) 老化制御の達成(栄養と老化)		

(評価結果・老化制御研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化制御	生体調節機能	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 水素分子による抗炎症の分子機構解明と水素医学の実用化 (2) ミトコンドリア変容を指標とした異種老化細胞同定と老化制御		

(評価結果・老化制御研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化制御	老化細胞	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 気腫病態における老化細胞の病理的役割の解明と老化細胞を標的とした COPD 治療モデルの確立 (2) 筋由来抗細胞老化因子の探索と運動療法作用点の解明 (3) 抗細胞老化・セノリティック活性を持つ植物由来成分の探索 (4) 老化細胞の代謝特性の解明		

(評価結果・老化脳神経科学研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化脳神経科学	自律神経機能	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 交感神経活動が骨格筋の収縮・緊張におよぼす作用 (2) 体性感覚刺激を用いた松果体機能の調節 (3) 高齢者の心臓自律神経機能と嗅覚弁別機能 (4) 脳内環境の恒常性維持と脳内コリン作動系 (5) 高齢者の認知機能低下を予防する嗅覚刺激法の開発		

(評価結果・老化脳神経科学研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化脳神経科学	記憶神経科学	A
【評価対象(研究項目)】 (1) QOL 維持に向けた記憶学習シグナリング機構の解明 (2) 加齢などによる脳機能低下の神経回路・分子メカニズム解明 (3) 認知症治療に向けた小脳機能代償機構解明		

(評価結果・老化脳神経科学研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老化脳神経科学	老化神経生物学	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 加齢や神経変性疾患に伴うシナプス機能低下の解析と介入方法の開発 (2) 脳内物質補充によるシナプス可塑性調節を介した老化に伴う運動・認知機能低下の改善法の検討 (3) 創薬展開を指向した老化や精神・神経疾患の脳シナプス解析		

(評価結果・加齢変容研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
加齢変容	心血管老化再生医学	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 心臓組織の機能維持とその破綻の機序解明 (2) 血管を介した臓器間相互作用から探る加齢性心血管疾患発症機序の解明 (3) 心臓組織機能の再生とその機序の解明		

(評価結果・加齢変容研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
加齢変容	筋老化制御	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 筋萎縮・筋老化のメカニズムの解明と制御 (2) 骨格筋の再生メカニズムの解明 (3) 骨格筋の性質を規定するエピゲノム制御の解明 (4) 筋疾患の病態解明と治療基盤の創出		

(評価結果・老年病理学研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老年病理学	高齢者がん	A
【評価対象(研究項目)】		
(1) 膵臓がんの老化誘導療法の開発		
(2) 膵臓がんの多様性の解明と個別化治療の開発		
(3) 膵臓がんの転移機序の解明と転移抑制療法の開発		
(4) 大腸がん培養細胞株の3次元培養による多様性の研究		
(5) 剖検組織標本を用いた老年性疾患のテロメア長解析		

(評価結果・老年病理学研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
老年病理学	神経病理学	S
【評価対象(研究項目)】		
(1) 嗜銀顆粒性疾患の認知症に加え、運動障害への関与の解明		
(2) 全身疾患としてのレビー小体病スクリーニングに基づく高齢者フレイル研究		
(3) アルツハイマー病疾患修飾療法の実証研究		
(4) 前頭側頭型認知症・筋萎縮性側索硬化症、辺縁系優位 TDP43 蛋白蓄症の総合的研究		
(5) 高齢者糖尿病の、血管病、認知症への関与に関する病理研究		
(6) 高齢者脳におけるゲノム発現背景研究		
(7) 凍結筋リソースを用いた高齢者フレイル研究		

(評価結果・神経画像研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
神経画像	PET 薬剤科学	A
【評価対象(研究項目)】		
(1) 放射性薬剤の開発に関する研究:PET 脳血流診断剤の開発		
(2) 放射性薬剤の開発に関する研究:HDAC6 リガンドの開発		
(3) 放射性薬剤の開発に関する研究:その他の新規放射性薬剤の開発		
(4) 基盤技術の開発に関する研究		

(評価結果・神経画像研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
神経画像	PET 画像診断	A
【評価対象(研究項目)】 (1-1) 脳の加齢変化と認知症の早期診断及び発症予測の研究:PET バイオマーカーによる解析 (1-2) 脳の加齢変化と認知症の早期診断及び発症予測の研究:健常高齢者コホートの画像追跡 (2) アストログリオシス画像など PET 診断技術の臨床応用とその支援となる画像処理技術の開発 (3) 認知症克服へ向けた国内外の多施設共同研究及び治験への参加		

(評価結果・神経画像研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
神経画像	AI 画像解析	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 顔による認知症スクリーニング方法の推進 (2) 松尾研究室との共同研究の推進 (3) 核医学動態解析の研究 (4) AI を用いたデータの可視化 (5) 理論医学の推進		

2 社会科学系 外部評価委員会

1 評価対象(研究テーマ)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
社会参加とヘルシーエイジング	社会参加・社会貢献	A
	ヘルシーエイジング	A
	大都市社会関係基盤	A
自立促進と精神保健	フレイル・筋骨格系の健康	A
	オーラルフレイルと栄養	A
	認知症・精神保健	A
福祉と生活ケア	デジタル高齢社会	A
	医療・介護システム	A
	ソーシャルインクルージョン	A

2 評価方法

各研究テーマについて、第四期中期目標・中期計画(令和5年度～令和9年度の5カ年計画)期間における①当該年度の研究成果 ②研究計画実現の可能性 の評価項目により5段階(5点満点)の評価を行い、総合評価点について、以下のようにSからDの5段階に評価を区分した。

総合評価点	評価区分
4.4点以上	S(非常に優れている)
3.2点以上～4.4点未満	A(優れている)
2.0点以上～3.2点未満	B(ふつう)
1.5点以上～2.0点未満	C(やや劣っている)
1.5点未満	D(劣っている)

3 外部評価委員

区分	氏名	所属機関名	所属部署・役職名
学識経験者 (委員長)	神崎 恒一	杏林大学	医学部高齢医学・教授
学識経験者	荒井 秀典	国立長寿医療研究センター	国立長寿医療研究センター・理事長
学識経験者	飯島 勝矢	東京大学	高齢社会総合研究機構・機構長
学識経験者	海老原 覚	東北大学	大学院医学系研究科 臨床障害学 分野・教授
学識経験者	亀井 智子	聖路加国際大学	看護学部長
学識経験者	和気 純子	東京都立大学	大学院人文科学研究科 社会行動 学専攻 社会福祉学分野・教授
都民代表者	本田 麻由美	読売新聞	東京本社医療部・編集委員
行政関係者	梶野 京子	東京都	福祉局・高齢者施策推進担当部長

(令和7年2月27日現在)

4 外部評価委員会 開催日

令和7年2月27日(木)

5 評価結果

次頁のとおり

(評価結果・社会参加とヘルシーエイジング研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
社会参加とヘルシーエイジング	社会参加・社会貢献	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 社会貢献の実態と次世代高齢者に関する調査研究 (2) 多様な生涯学習の開発と機序解明に関する介入研究 (3) 多世代共生社会の構築に資する実践的研究		

(評価結果・社会参加とヘルシーエイジング研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
社会参加とヘルシーエイジング	ヘルシーエイジング	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 基礎的研究:介護予防・フレイル予防に向けた疫学研究 (2) 応用的研究:介護予防・フレイル予防の手法検証 (3) 挑戦的研究:働きかけが難しい層へのアプローチ方法の検討		

(評価結果・社会参加とヘルシーエイジング研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
社会参加とヘルシーエイジング	大都市社会関係基盤	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 中年期からの孤立予防 (2) PDCA サイクルに沿った多様な通いの場の推進と評価 (3) 東京 LSA:高齢期の健康・生活の縦断的变化と時代・地域差		

(評価結果・自立促進と精神保健研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
自立促進と精神保健	フレイル・筋骨格系の健康	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 板橋区在住高齢者の大規模研究フィールドの維持・発展 (2) フレイルに関する研究 (3) サルコペニアに関する研究 (4) 軽度認知機能障害に関する研究 (5・6) 慢性疼痛および関節症に関する研究 (7) 働く高齢者の転倒予防に関する研究		

(評価結果・自立促進と精神保健研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
自立促進と精神保健	オーラルフレイルと栄養	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 高齢者の口腔機能と栄養の改善に関する研究 (2) 口腔と栄養関連施策に関する検討		

(評価結果・自立促進と精神保健研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
自立促進と精神保健	認知症・精神保健	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 認知症共生社会実現に資する総合的研究 (2) あたらしい認知症ケアの開発研究 (3) 人生 100 年時代の老年社会医学研究の方法の確立		

(評価結果・福祉と生活ケア研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
福祉と生活ケア	デジタル高齢社会	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 日常生活ウェアラブルデータを用いたフレイル等発症の予測に関する研究 (2) IOT を活用した日常生活パターンとフレイルの社会的側面に関する研究 (3) 精神的健康を高めるコーピングに関する研究 (4) 呼吸サルコペニアの定義と健康アウトカムとの関連に関する研究		

(評価結果・福祉と生活ケア研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
福祉と生活ケア	医療・介護システム	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 保健・医療システムに関する研究 (2) 医療と介護の連携に関する研究 (3) 介護システムに関する研究 (4) 東京 LSA (SONIC 研究) の推進		

(評価結果・福祉と生活ケア研究チーム)

研究チーム名	研究テーマ名	評価結果
福祉と生活ケア	ソーシャルインクルージョン	A
【評価対象(研究項目)】 (1) 倫理的課題に関する研究 (2) 診断後支援に関わる研究 (3) 高齢者困難事例に関する研究 (4) 医療介護資源へのアクセスが不良な地域における認知症支援体制に関する研究		

3 外部評価委員会設置要綱

東京都健康長寿医療センター研究所外部評価委員会設置要綱

制定 平成22年12月24日付22健事第1174号
一部改正 平成25年10月1日付25健事第1259号
一部改正 平成27年3月31日付26健事第2950号
一部改正 平成30年7月31日付30健経第2176号
一部改正 令和4年6月20日付4イ健事第383号
一部改正 令和5年1月10日付4イ健事第1219号
一部改正 令和6年7月1日付6健イ事第476号
一部改正 令和6年9月30日付6健イ事第836号

(設置目的)

第1条 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター東京都健康長寿医療センター研究所（以下「研究所」という。）が実施する研究について、厳正な評価を行い、もって、より効率的・効果的な研究活動を推進し、都民である高齢者のための健康維持や老化・老年病予防に寄与する研究体制づくりに資することを目的として、研究所外部評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 研究所で行われるテーマ研究、認知症未来社会創造センター、フレイル予防センターを対象とする。
- (2) 前号の研究評価を実施した後、速やかに評価結果及びその概要をとりまとめ、必要な意見を付して、センター長及びセンター運営会議に報告すること
- (3) その他、センター長が必要と認める事項

(組織及び開催)

第3条 委員会は、次の各号に定める委員会（以下「各委員会」という。）によって組織される。

- (1) 自然科学系研究外部評価委員会
 - (2) 社会科学系研究外部評価委員会
- 2 各委員会に委員長を置く。委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 委員長は、各委員会を招集し議長を務める。

- 4 各委員会は、委員の過半数の出席により成立する。
- 5 委員長に事故があるときは、予め委員長が指名した委員が委員長の職務を代行する。

(構成)

第4条 各委員会は、次の各号に掲げる評価委員(以下「委員」という。)8名以内をもって構成し、委員はセンター長が委嘱する。

- (1) 学識経験者 6名以内
 - (2) 一般都民を代表する有識者 1名
 - (3) 行政関係者 1名
- 2 委員長は、必要と認めるときは、関係者に各委員会への出席を求めることができる。
 - 3 委員長は、必要と認めるときに部会を設けることができる。部会長は委員の中から委員長が指名するものとする。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、就任の日から3年以内とし、再任することを妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残存期間とする。

(評価)

第6条 第2条(1) に定める評価は、評価実施時期に応じて下表のとおり実施する。

評価実施時期	評価の種類	評価の活用
中期計画期間前年度	事前評価	センター長が研究計画について決定する際に活用
中期計画期間初年度から最終年度の前年度まで	中間評価	センター長が研究計画の継続等について決定する際に活用
中期計画期間最終年度	最終評価	センター長が研究計画の継続等について決定する際に活用

(公開)

- 第7条 各委員会の会議は公開する。ただし、委員長あるいは委員の発議により、出席委員の過半数で決議したときは、会議を公開しないことができる。
- 2 会議を公開するときは、委員長は、必要な条件を付することができる。

(評価結果の公表及び開示)

第8条 センター長は、評価結果の概要を公表する。

- 2 センター長は、研究チーム、研究テーマ、認知症未来社会創造センター、フレイル予防センターの代表者から求めがあった場合、研究テーマ、認知症未来社会創造センター、フレイル予防センターの代表者に、研究テーマ、認知症未来社会創造センター、フレイル予防センターに係

る評価結果を開示することができる。ただし、委員会で決議のあった事項については、開示しないことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康長寿イノベーションセンター研究支援ユニットにおいて処理する。

(雑 則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、外部評価の実施に関し必要な事項は、センター長が定める。また、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年12月24日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年10月 1 日から施行する。

附 則(平成27年 3 月31日付26健事第2950号)

この要綱は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 7 月 31 日付 30 健経第 2176 号)

この要綱は、平成 30 年 8 月 1 日から施行する。

附 則(令和 4年 6月20日付4イ健事第383号)

- 1 この要綱は、令和 4年 6月21日から施行する。
- 2 改正後の要綱第5条の規定は、施行日の後に委嘱される委員について適用し、施行日の前の委員については、なお従前の例による。

附 則(令和5年1月10日付4イ健事第1219号)

- 1 この要綱は、令和5年1月10日から施行する。
- 2 改正後の要綱第2条及び第8条の規定は、第四期事前評価から適用し、第三期最終評価については、なお従前の例による。

附 則(令和 6 年 7 月 1 日付 6 健イ事第 476 号)

この要綱は、令和 6 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(令和6年9月30日付6健イ事第836号)
この要綱は、令和6年10月1日から施行する。

4 外部評価委員会実施要領

東京都健康長寿医療センター研究所外部評価委員会実施要領

制定 平成22年12月24日 22健事第1175号

一部改正 平成25年10月1日 25健事第1260号

一部改正 令和5年1月10日 41健事第1220号

一部改正 令和6年7月1日 6健イ事第 477号

(目的)

第1 この要領は、東京都健康長寿医療センター研究所(以下「研究所」という。)外部評価委員会(以下「委員会」という。)設置要綱の規定に基づき、研究の外部評価の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

(評価の対象)

第2 研究評価は、研究所で行われるテーマ研究、認知症未来社会創造センター、フレイル予防センターを対象とする。

(評価の実施)

第3 研究評価は、原則として、毎年度実施するものとする。

(評価委員及び評価の方法等)

第4 研究評価は、次の方法により行う。

- 2 評価は、外部評価委員会の委員により、研究報告書等により行う。
- 3 評価の実施にあたり、外部評価委員会は研究に関するプレゼンテーションをチームリーダー及びテーマリーダー等に行わせることができる。
- 4 委員会の開催にあたっては、別に設置された研究所内部評価委員会もあわせて行うこととする。
- 5 委員長は、外部評価委員会に研究所内部評価委員会の委員を出席させることができる。

(評価基準)

第5 研究評価の評価基準は、5段階評価とする。

(評価項目・評価視点)

第6 研究評価の評価項目・評価視点は、評価の時期毎に下表のとおりとする。

	項目	視点
事前評価	行政・都民ニーズに対する有用性・必要性	有用な行政・都民還元が期待できるか、行政・都民ニーズの緊急性は高いか
	学術的な独創性・新規性	学術的な見地から研究計画に独創性・新規性が認められるか、国内外における研究の水準としてはどうか
	研究計画の実施体制の妥当性	研究計画に対して、構成・規模・他部門等との連携体制等実施体制は妥当か、倫理性は担保されているか
	研究計画の実現の可能性	研究期間内に研究目的を実現させるために妥当な研究計画となっているか
	総合評価	
中間評価	当該年度の研究成果	進捗状況はどうか、学術的な見地から新しい知見は得られたか、他部門と連携して効果的に研究が推進されているか、行政・地域・産業・学会等に還元可能な具体的な研究成果が出ているか
	研究計画実現の可能性	研究期間内に目的を実現するために妥当な進行になっているか
	総合評価	
最終評価	研究計画期間における研究成果	研究計画における目標を達成したか、学術的な見地から新しい知見が得られたか、他部門との連携は効果的であったか、費用対効果のバランスは妥当であったか
	研究計画期間における研究成果の普及・還元	特許等への活用があったか、行政・地域・産業・学会等へ積極的に成果の普及・還元を行ったか
	研究の継続性	研究継続の必要性・妥当性、研究継続の課題・方向性
	総合評価	

(評価結果の活用)

第7 センター長は、研究評価の結果を評価の時期毎に、次により活用する。

- 1 事前評価は、①研究計画・体制等の設定、②研究資源の配分とする。
- 2 中間評価は、①研究計画・体制等の見直し、②研究資源の配分とする。
- 3 最終評価は、①研究計画・体制等の見直し、②次期計画への継続の有無の決定とする。

(雑則)

第8 この要領に定めるもののほか、外部評価の実施に必要な事項は、センター運営会議の議決を経て、センター長が定める。

附 則

この要領は、平成22年12月24日から施行する。

附 則

この要領は、平成25年10月 1 日から施行する。

附 則

1 この要領は、令和 5 年 1 月 10 日から施行する。

2 改正後の要綱第2条及び第6条の規定は、第四期事前評価から適用し、第三期最終評価については、なお従前の例による。

附 則(令和 6 年 7 月 1 日付 6 健イ事第 477 号)

この要領は、令和 6 年 7 月 1 日から施行する。